

目的

- ・対象児童の自己決定を促進し、主体的に生活をより良いものにできるよう、①意欲喚起、②感情の整理、③学びの軌跡の3視点からICT機器の活用法を探り、自立活動の6区分に応じたICTを活用した指導内容を検討することで、個別に最適化されたICT活用事例を収集する。
- ・自立活動の指導や通級による指導において、リモートを活用して①情報の一元化と正確な実態把握に基づく指導内容の設定、②学ぶ場をつないだ遠隔学習や合同学習の実施、③効果的な指導法の共有及び指導内容や指導方法の効果検証と実践評価を行い、対象児童の障がいの状況や個別の教育的ニーズに対応した効果的な指導を進める。
- ・事業の成果を広く、市内の小・中学校に報告するとともに報告書を作成し、効果的な指導方法を蓄積することにより確かな指導を確立する。

ICTを活用した自立活動の指導の実施

学びの基盤となる合理的配慮

自己決定を促進する ICT活用	
①意欲の喚起	興味関心に応じた題材・教材
②感情の整理	「こころの天気」・よいこと見つけ
③学びの軌跡	写真記録、好きなもの集め



個々の児童に応じた自立活動

ICTによる個別最適化

自立活動の6区分に応じた ICT活用	
健康の保持	・アプリによる自己記録 ・記録の共有
心理的な安定	・生活習慣やルールのデジタル化
人間関係の形成	・友達マッピング・デジタル教材SST
環境の把握	・感覚特性に応じた補助ツールの利用
身体の動き	・動画の活用した生活動作の習得
コミュニケーション	・代替、補助機器の活用



リモートを活用した情報共有と評価

①情報をつなぐ



③指導をつなぐ



学びをつなぐ リモート活用

①情報	子どもの姿の共有 情報の一元化による校内支援体制の検討と共有	データに基づく合意形成
②学ぶ場	通級指導教室との遠隔学習 通常学級と特別支援学級との合同授業	
③指導	個別の課題設定の検討 個別の指導の効果検証	教材・教具の共有 専門家からの指導助言



期待される効果

- ◆個別のニーズに応じた自立活動の指導事例、合理的配慮に基づく指導や支援方法が蓄積される。
- ◆特別支援学級担任及び特別支援教育コーディネーターの質の向上が望める。
- ◆遠隔学習により、障がいの状況に応じ、多様な場における学びの保障ができる。